

多摩大学まで歩こうプロジェクト

21211211 田代 尚誉	21211053 大内 昇悟
21211205 瀧田 湧仁	21211326 宮崎 智裕
21211269 野中 俊希	21211348 山本 康平
21211235 富澤 一樹	21211290 福増 省也

[発表概要]

永山駅から多摩大学までの間には、意外と気持ちいい道が在る。景観も良く、バスの行程よりも徒歩の距離は遥かに短い。歩くと時間はかかるが良い運動にもなり、学生も朝から気持ちよく勉強に励むことができるのではないだろうか。このような思いをきっかけとして、プロジェクトを通じて永山から多摩大学まで歩く人が増えてくれればと考えて、本プロジェクトに取り組むこととした。

実際の距離を調査したところ、学園バスの走行距離は約 3300 メートルで所要時間は 10 分程度、京王の路線バスでは約 3200 メートルで 12 分かかる。しかしながら、永山駅から大学までは直線距離で 1450 メートル、歩く移動距離でも 2000 メートルは無い。だが所要時間は約 22 分かかる。もっとも、ゼミ生が走れば 11 分という記録もある。

このように永山駅から多摩大学までは、十分に歩ける距離である。ではなぜ歩かない人が多いのだろうか。本研究では、ヒアリングからこの理由として、

- (1) 道がよく分からない
- (2) 坂道が多く、距離は短くとも疲れるので歩かない
- (3) 交通手段があるので、わざわざ歩く必要が無い

を指摘する。その上で、そのような理由にもかかわらず、学生が歩くようになるための取り組みを検討した。

道をわかりやすくするための手段として、電柱への案内標識の設置を検討し、そのための手続きや費用、交渉相手の検討を行った。また、看板設置。設置には東京電力の協力が必要。道中の疲れを感じさせないための施策として、永山駅と大学の間学生向け施設を誘致することの検討を行い、具体的に望まれる施設の内容について検討を行った。さらに、交通手段（学園バス）の存在の功罪についても検討し、歩く（歩かせる）ための手段として、バスの有料化や本数を減らすことや、バスに乗らずに歩く分だけ学生にメリットをもたらすような施策について検討した。

この検討から派生し、実行においては費用がかかるものが多いことと、学生の不利益となる内容もあることから、その対策としての大学内への学生向け駐車場の設置の可能性やそのメリットについても考察した。但し、本プロジェクトは現時点では机上検討に留まっており、具体化に向けての活動は今後の課題である。